

平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

診療ガイドラインの方向性の検討と提言

研究分担者 平和 伸仁 横浜市立大学附属市民総合医療センター腎臓・高血圧内科部長

研究要旨

臨床診療ガイドラインは、ここ 20 年ほどで様々な領域で作成されてきた。近年、Minds よりガイドライン作成マニュアルが整備され、作成方法を学ぶことができるようになってい
る。しかし、ガイドライン作成は各学会に委ねられていることが多く、作成費用に関する問
題もある。より良いガイドラインを作成、改定することは、本邦の健康政策に必須であると
考えられるが、様々な注意点やサポートが必要であり、継続的な検討が必要である。

A. 研究目的

最適な標準的治療法をエビデンスに基づいて記載した臨床診療ガイドライン(CPG)は、臨床の現場において不可欠な存在となっている。一方で、CPG 作成に関する公的サポートや作成方法などについて、近年、変わりつつある。専門家のみにより作成されてきた CPG であったが、すでにより幅広い領域からの人材が共同して作成することが望まれるようになってきた。より良い CPG を継続的に作成するために、その問題点と今後の方向性について方向性を示すことを目指す。

B. 研究方法

Minds の診療ガイドライン作成指針に基づき、本邦の代表的 CPG である高血圧治療ガイドライン作成課程などを検証し、また実際のガイドライン作成時の費用や推奨決定のプロセス、さらに費用対効果に関する

記載など、ガイドライン作成における課題を検討する。

（倫理面への配慮）

（該当なし）

C. 研究結果

Minds による CPG 作成講習会、ガイドライン作成グループ意見交換会などで、様々な領域の CPG 作成において、適切なエビデンスの創出、推奨の決定プロセス、市民からの意見聴取（CPG への適用）などの必要性和現時点での適合性、さらに課題などが明らかとなってきた。また、CPG 作成には人的・物質的資源が必要であり、適切な C.O.I を保ちながら、理想的な CPG を作成するには、学会の自助のみで行うことは困難であることが考えられた。

D. 考察

適切かつ有用な CPG を作成することは、

国民の健康に資する上でとても重要である。CPG 作成方法は、様々なものが推奨されているが、単に作成方法が示されるだけでは継続的に CPG を作成、改定し続けることは難しい。CPG を適切に作成するためには、重要な CPG を選択し、公的資金を投入し適切な COI を担保した上で、科学的に作成する必要がある。なお、海外でも CPG が作成されており、それを本邦でも一部利用できるかどうかについての検討も今後必要である。

E . 結論

CPG は、国民の健康維持に必須の情報であり資源である。また、CPG により費用対効果や医療費の適正配分に関する検討が可能であり、今後も適切に作成することが必要である。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1. 論文発表

Hirawa N, Umemura S, Ito S.

Viewpoint on Guidelines for Treatment of Hypertension in Japan. Circ Res 2019;124:981-3.

2. 学会発表

なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

なし